

マイボーム腺機能不全治療の最近の進歩

有田玲子（伊藤医院、LIME 研究会）

マイボーム腺機能不全（meibomian gland dysfunction, MGD）はドライアイの主因として重要で、日常臨床で眼科医が最もよく遭遇する疾患のひとつである。最近ではドライアイ全体の 86%が MGD であるとの報告もなされた。2011 年に Tear Film and Ocular Society（TFOS）が MGD workshop を開催し、はじめて国際的に MGD の定義、病態、治療方針などが提唱された。TFOS の治療アルゴリズムによると 1) 患者教育、温罨法、眼瞼清拭 2) ドライアイの治療 3) 保湿眼軟膏、抗菌薬内服 4) 抗炎症 となっている。私たちは温罨法や眼瞼清拭がマイボーム腺に与える効果について多施設研究を施行し、具体的に効果的な温罨法や眼瞼清拭の方法を検証した。抗炎症、抗角化作用をもつ活性型ビタミン D3 軟膏が MGD 患者に効果的であることや、油性点眼、ジクアホソル点眼の涙液油層への効果も報告してきた。最近では、病院で行う Warming Compress としての LipiFlow や、Photo modulation を目的とした Intense Pulsed Light が登場し、国際的に注目を浴びている。従来の治療法では満足感を得られなかった MGD の治療が今後大きく変わっていく可能性に期待している。